

福山市立大学 地域と大学 第16回

新年おめでとうございます。登場3回目、地域連携担当の石山です。皆さんは、幼い頃どのように「ことば」を獲得していったかを覚えていますか？私は天満屋様のことを「てんやま」、出血時には「ちががでた」と言っていた記憶が。ちなみに我が子は「エベレーター」…。

昨年11月17日、福山市立大学地域連携センター事業として「幼児期のことばの発達について」をテーマに教育学部の伊澤幸洋教授による講演会&意見交流会が開催されました。

講演会では「幼児がことばを獲得する道筋―初期の言語発達に焦点を当てて―」と題し、伊澤教授から「年齢に応

じたことばの発達（発語から二語文・三語文の獲得までの発達過程）」や「精神・知能の発達と運動発達との関係」等について、具体例を交えながらわかりやすく説明いただきました。

続いては、ファシリテーター進行のもと参加者同士の意見交流会。和気あいあいとした雰囲気の中、子どものことばの発達に関して日頃気になっていること等について意見が交わされ、ファシリテーターからは、子どものことばの獲得を促すために、日常生活のなかで大人がすべき声かけや接し方等の紹介がありました。参加者からは「ことばの発達だけでなく、心身の成長や就学後の学びにつなげてのお話を聞くことができ、大変有意義な時間になった」と等の感想をいただきました。



地域連携センターでは、今後ともさまざまな取り組みを推進していきます。皆さんのご参加をお待ちしております！

●高大連携レポート

あけましておめでとうございます。地域連携コーディネータの安藤です。大学では高校との連携も推進しています。今回は、福山明王台高等学校様の行事「社会人講話」に本学の学生が登壇した件を紹介します。

オフアアは、都市経営学部4年生の佐藤俊介さん宛にいただきました。佐藤さんは保命酒Barを主宰し、精力的に地域での活動を広げている学生です。

当行事は高校1年生が対象とのことですが、歳の近い大学生が登壇するということで、今回は高校2年生も参加することに。プレゼンの場を何度も経験してきた佐藤さんですが、約500人の高校生を前に行う講演は初めてとのこと、珍しく緊張の面持ちでした。

「好きの解像度を上げる」をテーマに臨んだ佐藤さん。質疑応答では「キヤパオーバーのときの対処法を教えてください」「特にやりたいことがありません」など多くの生徒さんから質問と相談が飛び出しました。

当日は事務局から職員3名が同行したのですが、佐藤さんの講演は私たちも考えさせられるものがありました。

た。日々飛ぶように過ぎる毎日のなかで、大人だって「好きの解像度を上げる」ことを忘れてはいけな、と見つめ直すきっかけをいただきました。



FUKUYAMA CITY UNIVERSITY

福山市立大学

教育学部、都市経営学部の2学部で構成される公立の4年制大学。自治体や地域社会、地元企業との連携を深め、持続可能なまちづくりに寄与する人材の育成をめざしている。

【問い合わせ先】

福山市立大学 事務局総務課 連携担当
☎ 084-999-1112 ✉ soumu@fcu.ac.jp



研究シーズ集